



RCE Chubu

A Regional Centre of Expertise on Education for Sustainable Development,
acknowledged by United Nations University

水と流域・愛知フォーラム
2023/2/23

「SDGs達成に向けた日本の祭りと生物多様性保全プロジェクト」

鯨船祭りから考える 生物文化多様性

伊勢湾の鯨、漁業を考える



富田鯨船保存会連合会
加藤 正彦



鯨船行事とは

- 三重県四日市市富田
- 鳥出神社
- 8月14・15日

- 1) 鯨船山車が張りぼての鯨を仕留める陸上での模擬捕鯨
- 2) 鯨船と鯨の激しい攻防と「羽刺し」の鉾打ちが見どころ
- 3) 13日は路地で演技する「町練り」、15日は神社境内で演技する「本練り」
- 4) 4艘の鯨船があり、それぞれ4つの組が別々に管理運営する
- 5) 練りは3歳～80歳くらいまでの約60・80名の住民で演技をする



4艘の山車

北島組：神社丸 朝の海



中島組：神徳丸 昼の海



南島組：感応丸 午後のお海



古川町：権現丸



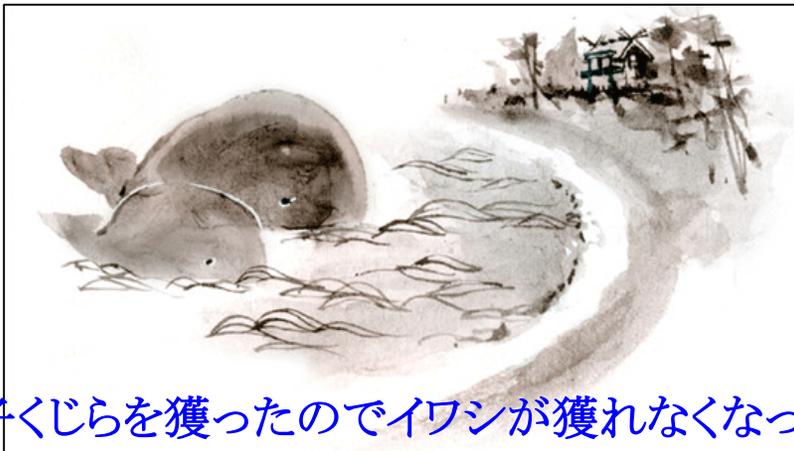
鯨船行事と漁業

北勢・熊野の鯨船行事

北勢地方→陸上模擬捕鯨
熊野地方→海上模擬捕鯨

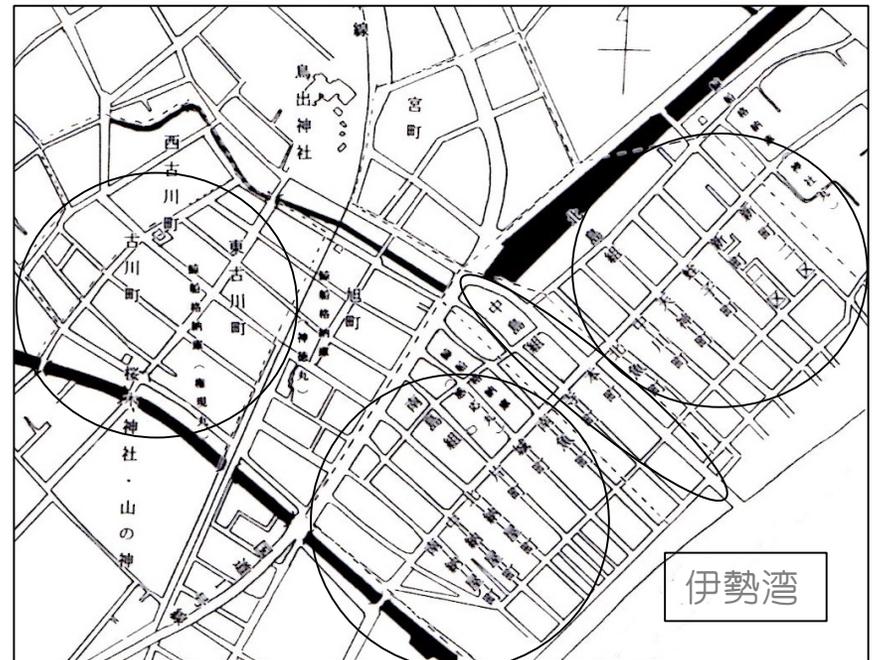
- • • 5地区8艘
- • • 2地区

富田地区の漁村文化



親子くじらを獲ったのでイワシが獲れなくなった

地曳き網を引くための町並み＝組割り





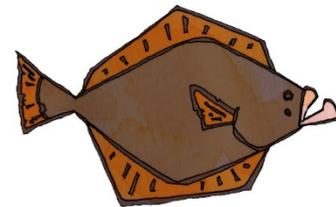
東富田の町並み



昔からの狭い道に連子格子セコと呼ばれる行き止まり漁師町の名残がある



東富田では水産加工業が盛んでした。



伊勢湾岸の漁業 富田・富洲原→**小型底曳網漁**



ハマグリ

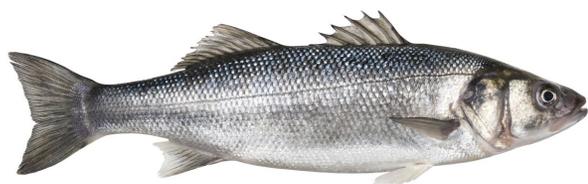


オキシジミ(シシビ)



アサリ

アジ、サバ、イワシ、セイゴ、チヌ
サワラ、ハマチ、メバル、イシモチ
コチ、カレイ、ウシマキ、アナゴなど



スズキ(セイゴ)



クロダイ(チヌ)



コウナゴ(イカナゴ)



カタクチイワシ



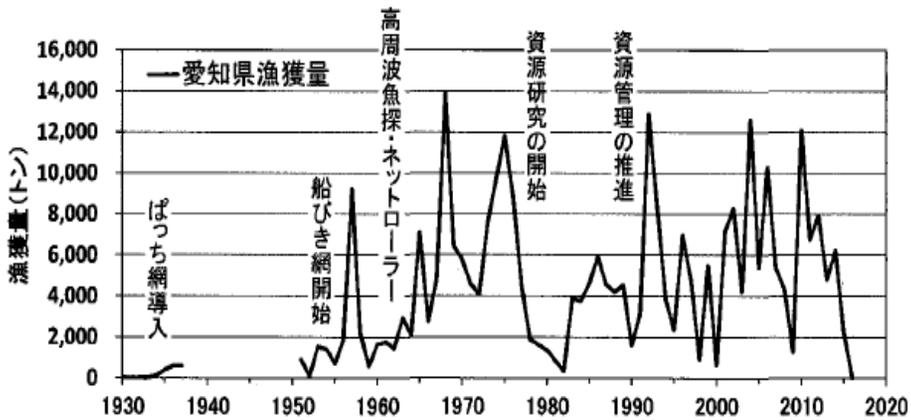
クルマ、ガンサ、シバエビ



伊勢湾では毎年2月～3月にかけて「春を告げる魚」小女子の漁が行われ、浜に干す風景は早春の風物詩でした。

コウナゴ(イカナゴ)とコウナゴ漁

：



海水温の上昇で伊勢湾のコウナゴは絶滅した？！



その手は桑名の焼きはまぐり



狂歌入東海道五十三次 桑名・富田立場之図 歌川広重

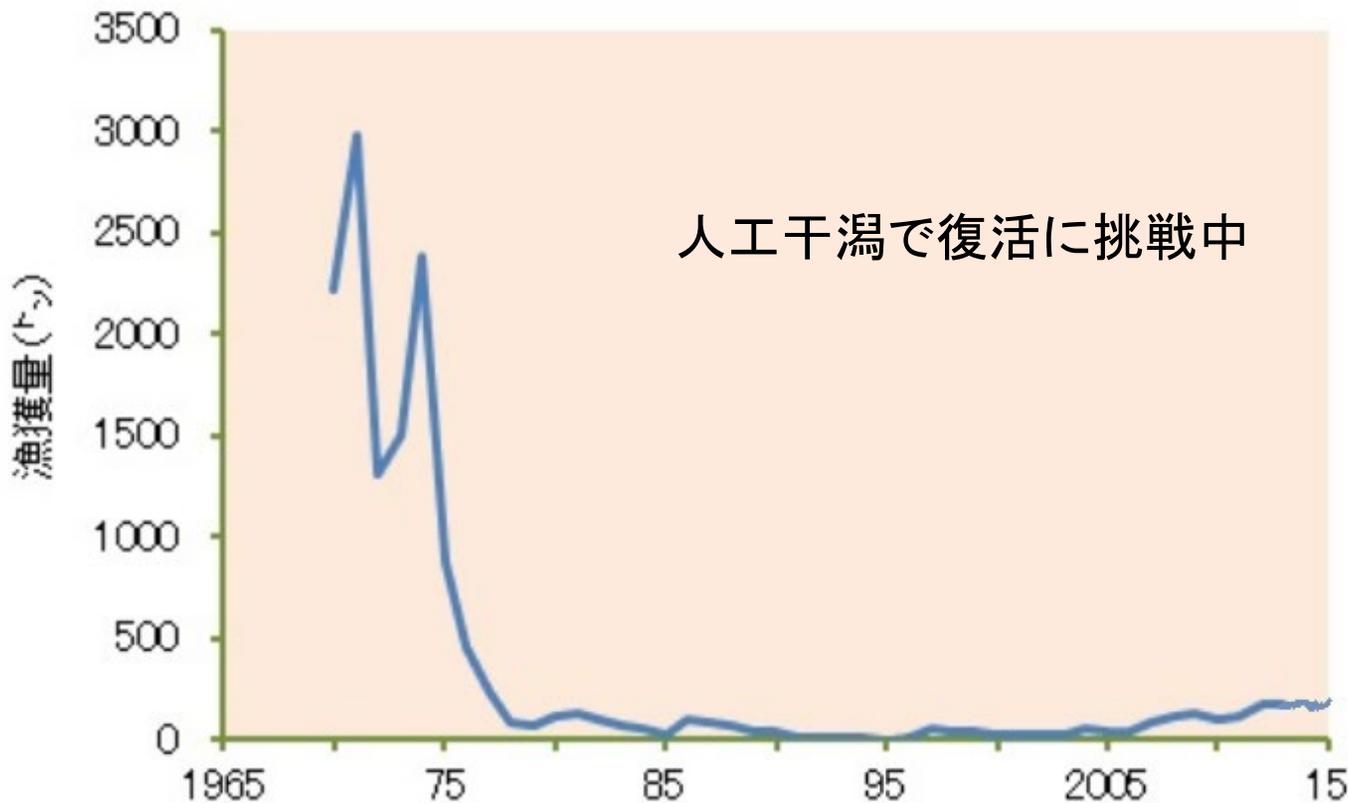
天保十三年 一八四二年

乗り合の ちいが雀の はなしには やき蛤も 舌をかくせり 碓の門鬼丸

『焼きはまぐり』 歌川廣重：狂歌入東海道五拾三次 “桑名 富田立場之図”

伊勢湾に棲む内湾性のハマグリは 干潟の減少や環境悪化で激減

桑名地区のハマグリ漁獲量の推移



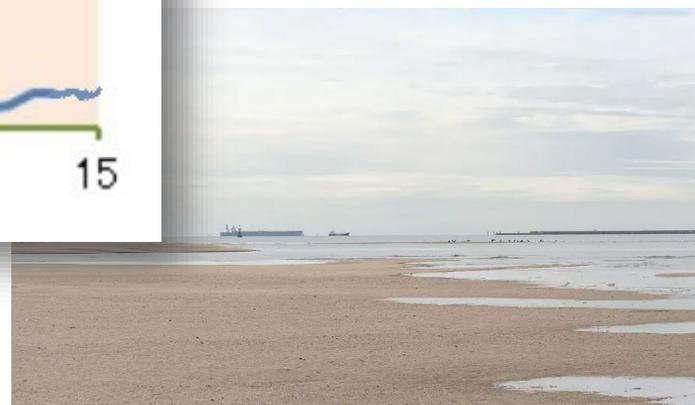
ハマグリ
の復活には十分な汽水域をもった砂浜、
砂干潟の復活が必要



3種類のハマグリ

- ・ハマグリ(本蛤) 4%
- ・チョウセンハマグリ 6%
- ・シナハマグリ 90%

※外来種ホンビノス貝
(東京湾、大阪湾)





くじらぶね
**鯨船祭りから考える
生物文化多様性**



「SDGs（持続可能な開発目標）の達成に向けた日本の祭りと生物多様性プロジェクト」は、生物多様性と文化多様性の両方を融合して、持続可能な社会づくりの担い手を育成することを目的としています。特に、日本の伝統的な祭り（祭礼）に登場する生物（植物・動物）をとりあげて、人と自然との共生の知恵を学びます。また同時に、近代化と共に変化した自然環境や、そのことにより引き起こされる生物にまつわる新たな課題などを学ぶことで、伝統知と未来の社会づくりとの結節点を生み出し、課題解決の担い手を育てます。

第8回目のワークショップでは、三重県四日市市の富田地区でおこなわれる鯨船行事（鯨船祭り）をテーマに、祭りの魅力や伊勢湾の漁業文化を学ぶとともに、クジラとサステナビリティに関する課題について考えます。

2022年10月15日 ± 10:30 ~ 15:30 **要申込**

プログラム

- 10:30 ~ 11:10 第1部：学びのセッション「鯨船行事に見る漁村文化」
開会挨拶と趣旨説明：古澤礼太氏（中部ESD拠点事務局長、中部大学准教授）
講演：「鯨船行事に見る漁村文化」講師：加藤正彦氏（ユネスコ無形文化遺産「鳥出神社の鯨船行事」・富田鯨船保存会連合会会長）
- 11:10 ~ 12:00 まち歩き 講師：加藤正彦氏
- 12:00 ~ 13:30 昼休み（昼食は「まぐるレストラン」or「ひもの食堂」で各自食事）
- 13:30 ~ 15:30 第2部：対話と交流セッション「日本の捕鯨文化を考える」
講演：「日本の捕鯨文化とは」講師：末田智樹氏（中部大学人文学部教授）
話題提供：「捕鯨に関する国際的議論」 中島綾太（中部サステナ政策塾）
- 15:30 終了



参加申込み

QRコードからお申込みください。
ウェブサイトは「中部ESD拠点」で検索！
※申込締切：10月8日（土）まで



お問合せ

中部ESD拠点協議会 事務局
〒487-8501 愛知県春日井市松本町1200 中部大学国際ESD・SDGsセンター内
E-mail: office@chubu-esd.net TEL: 0568-51-7618 FAX: 0568-51-4736

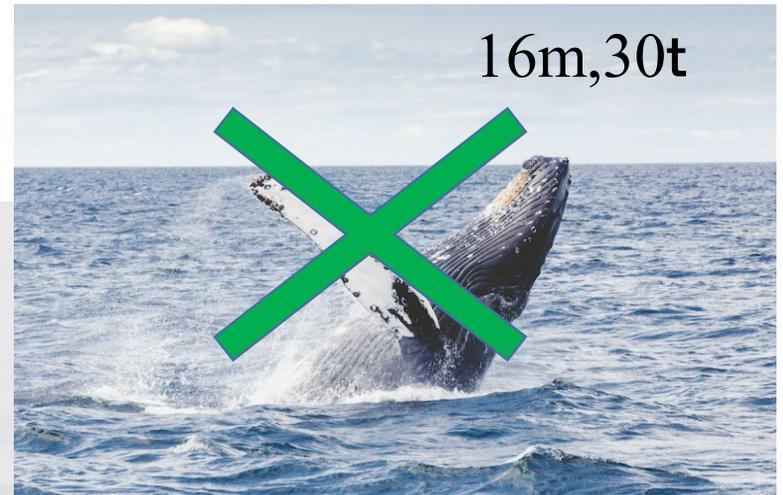


クジラを巻える



スナメリ:伊勢湾に約3900頭が棲息

20年前より少し増加傾向



2022/2/5,霞ヶ浦運河、富田2丁目田中氏撮影

伊勢湾の捕鯨

日本の突取り捕鯨漁は1580年頃に尾張藩知多・師崎で始まった
北勢地域には「捕鯨漁」をした記録はない
イワシ網に外道として掛かったクジラを神社に奉納した(祭の起源?)
今でも伊勢湾内で年に何回か「クジラの迷入や漂着」がある

様々なクジラ

世界の鯨類は約83種、三重県では約25種類を見ることができる



国際捕鯨委員会 (IWC) の管理対象

大型鯨類17種が対象

日本の捕鯨対象は3種: ミンククジラ、ニタリクジラ、イワシクジラ

2019年IWCを脱退。捕鯨量を決めて商業捕鯨を再開

日本の基本方針「科学的資源管理のための調査捕鯨は継続する」



令和5管理年度の漁獲可能量		
種類	漁獲可能量	前年実績量
ミンククジラ	167	58
ニタリクジラ	187	187
イワシクジラ	25	25

1. クジラはオキアミなどのプランクトンだけでなく、サンマやイカ、タラ、サケなどを主要な餌として食べている
2. 漁業者が漁獲する前に、はえ縄にかかったマグロをクジラが食べてしまうなどクジラにより漁業が妨げられる事例がある
3. クジラが餌として食べている魚介類の量は、世界の海面漁業生産量の3倍から5倍にのぼる量であると推定されている



生物文化多様性

河川の終着点は海の出発点です

漁業は農業に比べ環境コントロールが難しく

全ての水環境を整えなければ持続性が保証されない。

又、漁業に根差した文化も産業環境の影響を大きく受ける。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS

世界を変えるための17の目標

